

製品名: TSYL2 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab19383

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	76kDa

抗原情報

遺伝子名	TSPYL2 CDA1 DENTT TSPX HRIHFB2216
別名	
遺伝子 ID	64061.0
SwissProt ID	Q9H2G4
免疫原	ヒトタンパク質の一部領域から得られた合成ペプチド

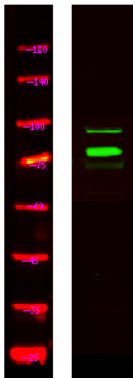
背景

この遺伝子は、精巣特異的タンパク質 Y にコードされる TSPY 様/SET/ヌクレオソームアセンブリタンパク質 1 スーパーファミリーのメンバーをコードします。コードされているタンパク質は核小体に局在し、クロマチンリモデリングおよび細胞周期進行の阻害因子

として機能します。このタンパク質は腫瘍の増殖抑制に役割を果たす可能性があります。[RefSeq 提供、2009年9月],機能: CASK/TRB1/TSPYL2 転写複合体の一部であり、神経シナプス活動に応じて遺伝子発現を調節します。おそらくヌクレオソームアセンブリを促進することによります。p53 依存性 CDKN1A 発現を誘導することにより、細胞増殖を阻害する可能性があります。誘導: 増殖停止 T細胞で上方制御されます。肺癌細胞において、TGFβ1 およびオールトランスレチノイン酸によってタンパク質レベルで誘導される。、その他: X染色体不活性化を受ける。、その他: シナプス活動は、プロテアソームによる急速な分解を誘導することで、TSPYL2 タンパク質レベルをダウンレギュレーションする。、PTM: Ser-20 および / または Thr-340 のリン酸化は、細胞増殖における機能を阻害する。、類似性: ヌクレオソームアセンブリタンパク質 (NAP) ファミリーに属する。、細胞内局在: ニューロンのクロマチンの転写活性領域に豊富に存在する。、サブユニット: ヒストンと相互作用する。CASK と相互作用する。CASK、TRB1、および TSPYL2 を含む複合体の一部である。、組織特異性: 普遍的に発現し、脳、精巣、心臓で最も高く、肝臓と脾臓で最も低く発現する。、

研究分野

画像データ



Hela 細胞溶解のウェスタンブロット分析。一次抗体は 1:1000 希釈。二次抗体は 1:10000 希釈。